

**活動主題** 「附中のよさを再認識し、附中のために行動できる自分になる」

### 活動の価値

附中のよさの一つに、校訓である「自主と責任」に向かい、自分の行為に責任をもち、一人ひとりが高みを目指して行動するところがある。その高みを目指すために考え、行動することを一人ひとりが為すことで、その集団は「高牟礼」、すなわち高みを目指していく集団となる。このような附中のよさを改めて認識することで、子どもたちは学校のよさを再度理解することができ、その意識が学校や後輩に向かって自主的な行動に生かされると考える。3年生は、まもなく中学校を卒業し、学校を後輩に託すことになる。「自主と責任」「高牟礼の誇り」を基に、改めて附中のよさについて考えることは、卒業前の3年生として後輩や学校のために最後に為す行動を見いだす上で、大変価値高い。

本活動は、「自主と責任」「高牟礼の誇り」を基に、附中のよさを改めて認識し、後輩や学校のために行動できる自分を探る活動である。この活動を通して子どもは、3年生として後輩や学校のためにできることを模索するためには、自分の意識や行動を変える必要があることを理解することができる。また3年間の附中での生活を振り返ることで、「自主と責任」「高牟礼の誇り」といった附中のよさを改めて認識することができる。さらに、活動を通して学校を構成する集団の一員としての自覚を高め、後輩や学校に向けて、実際の行動に移すことができる。このことは、自己を見つめ、よりよい学校生活や今後の人生の構築に生かそうとする態度をはぐくむことができるため、意義深い。

### 子どもの実態

本学級の子ども(〇名)に事前アンケートを行ったところ、3年生として今まで学校のために力を尽くした経験はありますかと問うと、〇名の子どもが「ある」と答えた。これからの附中をよりよくしていくために必要なことを問うと、「行事や日常生活から反省に対する改善策を考えること」、「学校の伝統を守っていくこと」、「学校の風紀をよくする」などと答えた。後輩に期待することを問うと、「附中文化を継承してもらうこと」、「部活動などでまとめていく力」、「生徒会の取組などを引き継ぎ、次につなげること」「自分たちの代を超えること」と答えた。これから後輩とどのように関わっていきますかと問うと、「期待をする」「善くなるように願う」「仲良くする」と答え、「委員会などで関わる」「思いを伝え、行動を促していく」というような、具体的、能動的に関わろうとする回答が少なかった。また、子どもたちが1年生のときに、「自主と責任」「高牟礼の誇り」について学習し、そこに向かって自他を高め合うことの価値を理解している。しかし、時間を守る、自他のために行動するなど、自主的な行動をとることに個人差が見られるようになった。

以上のことから、本学級の子どもは、学校行事や委員会活動を通して、3年生として学校のために力を尽くしてきたことがわかる。また、部活動の新体制や、生徒会改選など、組織の中心が後輩に移ることで、自分たちよりもいいものをつくってほしいという期待を込めていることがわかった。しかし、期待している以外で具体的、自主的に自分たちから後輩に働きかけ、自分たちの思いや考えを伝えたりするといった行動に言及している記述が少ないことが分かった。また、「自主と責任」「高牟礼の誇り」について理解しているものの、行動に伴っていない現実もある。したがって、卒業を間近に控えた子どもたちに、学校のよさを改めて認識し、自分たちの考えや取組を基に、後輩や学校に向けて行動に移すための実践意欲をさらに高めていきたいと考える。

### 活動の援助観

そこで本活動では、学校の発展に向けて何を為すべきか、見通しをもち、附中のよさを改めて認識し、学校を構成する集団の一員としての自覚をもち、後輩や学校に向けて、実際の行動に移そうとする意欲を高めることができるようにすることをねらいとする。そのために、次のような援助を行う。

- ・後輩や学校のためにできることを模索するためには、学校のことをよく知り、自分の意識や行動の変容が必要であることを理解できるように、間接資料「旅立ちの日に」を活用する。
- ・附中のよさを改めて認識することができるように、附中の3年間を想起し、受け継がれてきたもの、受け継ぐものについて考える活動を設定する。
- ・学校を構成する集団の一員としての自覚をもち、行動への意欲を高めることができるように、後輩や学校のために自分たちができること、為すことを考え、話し合う場を設定する。
- ・後輩や学校に向けて、実際の行動に移すことができるように、試行実践を実施し、振り返る場を設定する。
- ・自ら考え、判断し、実行することで、自らの責任によって行動や生き方を送ることができることを理解することができるように、間接資料「私も高校生」を活用する。

○ 子どもの学習目標

附中のよさを改めて理解し、後輩や学校のために行動できる。

○ 教師の援助目標

学校の発展に向けて何を為すべきか、見通しをもち、附中のよさを改めて認識し、学校を構成する集団の一員としての自覚をもち、後輩や学校に向けて、実際の行動に移そうとする意欲を高めることができるようにする。

活動計画（4時間）

次	時	学習活動・内容	子どもの問いと思考	援助のねらい・内容・方法
本時 (1/1)	1 ①	1 学校のさらなる発展に向けて、できることを考える。 (1) 間接資料「旅立ちの日に」を通して、学校のために取り組むことの意義について考える。 <b>道C-15</b> ・後輩や学校に働きかけるために、自分たちが変わる必要があることが分かった (2) 学習課題を設定する。 後輩のため、学校のために行動する3年生になろう	後輩や学校のために何ができるかな。  ↓ 後輩や学校のために、自分たちも何か行動に移したいな。	学校の発展に向けて何を為すべきか、見通しをもつことができるようにする。 ・後輩や学校のためにできることを模索するためには、学校のことをよく知り、自分の意識や行動の変容が必要であることを理解できるように、間接資料「旅立ちの日に」を活用する。 ・見通しをもつことができるように、学習課題を設定する。
	1 ①	2 これまでの附中生活を振り返る。 (1) 附中の3年間で想起し、受け継がれてきたもの、託すものについて考える。 <b>学(1)-ウ</b> ・附中のよさ、附中にしかないもの ・これまでの学校生活の振り返り ・先輩から受け継がれてきたもの ・後輩に託すもの	実際に行動していくために何が必要かな。  ↓ 校訓である「自主と責任」のもとで行動をすることが必要だな。	附中のよさを改めて認識し、学校を構成する集団の一員としての自覚をもち、後輩や学校に向けて、実際の行動に移そうとする意欲を高めることができるようにする。 ・附中のよさを改めて認識することができるように、附中の3年間で想起し、受け継がれてきたもの、託すものについて考える活動を設定する。
二	2 ①	3 学校や後輩に向けて何ができるか、取組を構想し、実践する。 (1) 後輩や学校のために自分たちができること、為すことを考え、話し合う。 <b>学(1)-ア</b> ・個人の視点からできること ・委員会の視点からできること ・その取組を行う価値 試行実践－附中をよりよくする運動－	実際にどんな行動を行っていけばいいんだろう。  ↓ 特別なことではなく、あたりまえのことを率先垂範して行っていくことが大事だな。	・学校を構成する集団の一員としての自覚をもち、行動への意欲を高めることができるように、後輩や学校のために自分たちができること、為すことを考え、話し合う場を設定する。 ・後輩や学校に向けて、実際の行動に移すことができるように、試行実践を実施し、振り返る場を設定する。
	1 ①	3 自主的に行動する価値について考える。 (1) 間接資料「私も高校生」を通して、自主的に考え、構想することについて考える。 <b>道A-1</b> ・自分で決めたことを最後まで全うすることで、責任をもった行動や生き方を送ることができることと分かった	つい自分自身を優先してしまう。どうすればいいんだろう。  ↓ 自分で決めたことに責任をもてるような生活をしていきたい。	これからの学校生活や人生に生かすことができるようにする。 ・自ら考え、判断し、実行することで、自らの責任によって行動や生き方を送ることができることを理解することができるように、間接資料「私も高校生」を活用する。
三				

本時 公開授業 1 第3学年〇組教室 第一次の1時 (1/1)

本時のねらい

集団をよりよくするために、自分の属する集団の意義や目指す方向性を考え、自分にできることを全うすることで、集団がさらに高まっていくことを理解し、自己を見つめ、実践への意欲をもつことができるようにする。

本時の過程

学習活動・内容	発問	援助のねらい・内容・方法	形態	配時
<p>1 本時の学習の方向性を確認する。</p> <p>(1) 学校の発展のために自分が行ってきたことについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三人行事 (体育祭、藤見会、文化祭)</li> <li>・縦のつながりを作ろうとした</li> <li>・委員会活動での仕事</li> </ul> <p>(2) めあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>学校をよりよくするために必要なことは何か、考えよう</p> </div> <p>(3) 資料を読み、感想を共有する。</p>	<p>【補助発問1】 後輩や学校のためにやってきたことは何か。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>学習の意欲を高めることができるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の意欲を高めることができるように、補助発問1を行い、めあてを確認する場を設定する。</li> </ul>	一斉	10
<p>2 資料を通して、合唱を行った際の道徳的価値について考える。</p> <p>(1) 合唱を行う意義について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のためでない自主的な取組を行うことのよさ</li> <li>・全員で一つのものをつくりあげようとするものの価値</li> <li>・常に高みを目指して行動すること</li> </ul> <p>(2) その行動につながる価値について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にできることを全うしたこと</li> <li>・集団のための自主的な行動</li> <li>・目的意識をもち、行動に移したこと</li> <li>・結果ではなく、最後まで行おうとしたこと</li> </ul>	<p>【発問2】 どうして懸命に歌うことが欠けている部分を補うことになるのだろう。</p> <p>【発問3】 (中心発問) どうすればこんな行動ができるようになるだろう。</p> <p>【補助発問4】 普段の自分たちの学校生活ではどうだろう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>集団をよりよくするためには、自分の属する集団の意義や目指す方向性を考え、自分にできることを全うすることで、集団が高まっていくことを理解することができるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団で行ってきたことを最後まで行うことに価値があることを理解できるように、発問2を行う。</li> <li>・集団をよりよくするために、自分の属する集団の意義や目指す方向性を考え、自分にできることを全うすることで、集団が高まっていくことを理解することができるように、発問3と補助発問4を行い、それぞれの考えを交流する場を設定する。</li> </ul>	個／学級集団	30
<p>3 本時の学習で学んだことから、これからの自分のあり方をまとめる。</p> <p>(1) 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後輩や学校といった相手に対して、自分にできることを考え、自主的に行動に活かそうとすること</li> <li>・卒業までの期間に3年生として、自他の為すことを明確にすること</li> <li>・集団を高めていくために、自分にできることを理解し、その行動に責任をもつこと</li> </ul>	<p>【発問5】 授業を通して、自分たちの今後の学校生活にどうつながっていきますか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>学校や集団をよりよくしようと、責任を伴う自主的な行動をしようとする自己を見つめ実践への意欲をもつことができるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や集団をよりよくしようと責任を伴う自主的な行動をしようとする自己を見つめ、実践への意欲をもつことができるように、発問4を行い、本時の学習を振り返る場を設定する。</li> </ul>	個／一斉	10

## 本活動にかかわる価値内容について

本活動は、学校の発展に向けて何を為すべきか、見通しをもち、附中のよさを再認識し、学校を構成する集団の一員としての自覚をもち、後輩や学校に向けて、実際の行動に移そうとする意欲を高めることができるようにすることをねらいとする。そこで、本活動に関わる道徳科の内容項目として、C－(15)よりよい学校生活、集団生活の充実、A－(1) 自主、自律、自由と責任を設定する。また、学級活動の内容としては、学級活動の(1)－ア. 学級や学校における生活上の諸問題の解決、(1)－ウ. 学校における多様な集団の生活の向上を設定する。

第一次ではC－(15)を設定し、後輩や学校のためにできることを模索するためには、学校のことをよく知り、自分の意識や行動の変容が必要であることを理解できるようにする。第二次では、まず、学級活動(1)－ウを設定し、附中の3年間で想起し、受け継がれてきたもの、託すものについて考える活動を通して、附中のよさを再認識できるようにする。次に、学級活動(1)－アを設定し、学校を構成する集団の一員としての自覚をもち、行動への意欲を高めることができるようにする。第三次ではA－(1)を設定し、自ら考え、判断し、実行することで、自らの責任によって行動や生き方を変えることができることを理解することができるようにする。

## 本時内容項目の分析

内容項目：C－15 よりよい学校生活、集団生活の充実

教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して、集団生活の充実に努めること。

「学校」とは、子どもが教師や級友、後輩などと信頼関係を築き、協力しながら集団生活を行う場のことであり、私的な集団生活の場である「家庭」とは異なる。学校は先輩と後輩、学級、学年、委員会や部活動など様々な集団が存在する。その中で、「自分の役割と責任を自覚」するために、学校生活を過ごす上で、自分の属する集団の意義や目指す方向性を十分に理解し、その中で自分にできることは何か、その行動をとることによってどんな結果をもたらされるかを十分にわきまえることが重要である。つまり、その集団の一員として何ができるかを考え、その行動に責任をもち、自主的に取り組んでいくことが必要となる。その行動が「集団生活の充実」につながってくるものと考え。

「集団生活の充実」とは、上記のような自分の属する集団がさらに高まり、自他ともに成長につながることであり、集団のために自分にできることを模索し、理想に向かって追い求めていくことで、自分自身が集団のために行う行動の質が磨かれ、さらに自己が向上していく。つまり、集団の中での自分の役割や責任を自覚し、行動することは、集団生活が充実するだけにとどまらず、自分自身の向上につながるようになる。

以上のことから、学校生活において、自分の属する集団の意義や目指す方向性を考えることで、自分の行動に責任をもち、自主的に取り組んでいくことにつながり、その行動がさらによりよい校風づくりに活かされることを理解し、今後の取組に向けて、自己を見つめ、実践への意欲をもつことができるようにすることが必要であると考える。

## 本時のねらいと手だて、子どもの実態

本時は、集団をよりよくするために、自分の属する集団の意義や目指す方向性を考え、自分にできることを全うすることで、集団がさらに高まっていくことを理解し、自己を見つめ、実践への意欲をもつことができるようにすることをねらいとする。そのために、次のような援助を行う。

- ・学習意欲を高めることができるように、補助発問1を行い、めあてを確認する場を設定する。
- ・集団で行ってきたことを最後まで行うことに価値があることを理解できるように、発問2を行う。
- ・集団をよりよくするために、自分の属する集団の意義や目指す方向性を考え、自分にできることを全うすることで、集団が高まっていくことを理解することができるように、発問3と補助発問4を行い、それぞれの考えを交流する場を設定する。
- ・学校や集団をよりよくしようと責任を伴う自主的な行動をしようとする自己を見つめ、実践への意欲をもつことができるように発問5を行い、本時の学習を振り返る場を設定する。

- 1 資料名 「旅立ちの日に」（出典：「中学道徳3 とびだそう未来へ」教育出版）
- 2 内容項目 C-15 よりよい学校生活、集団生活の充実 関連 A-1 自主、自律、自由と責任
- 3 資料の分析及び価値の解釈

本資料は、卒業間近の3年生が卒業の歌で披露する「旅立ちの日に」を巡り、先生や後輩、学校に対する意識の変容を記した資料である。進路選択が迫る中、なかなか卒業の歌の練習に本腰が入らない主人公に、音楽の先生からの一言で、学校よさや欠けている部分、後輩に向けた思いなどを考えていくことになる。そこに「合唱の取組を行うことは、学校よさを伸ばすと共に、学校に欠けている部分を補うことになる」という言葉が出る。ここでいうけやき中にとってのよさは、団結するときは力を発揮できるところで、欠けている部分は勝敗を決するとき以外では頑張れず、集団で取り組む価値を見いだせていないところであると考えられる。主人公や指揮者を務める友人などのやりとりを通して、最終的には学校や後輩たちにおくる合唱をつくろうと決心し、練習に明け暮れることになる。卒業式当日は、前日に発生した大地震の影響で、参加者が代表のみとなったが、最後の合唱練習中に主人公たちの思いを感じた先生や後輩たちが練習中に姿を現し、合唱後に大きな拍手に包まれるという内容である。

このことを通して、学校よさを改めて認識し、学校のために自分たちに必要なことは何かを理解することで、これからの実践への意欲をもつことができる資料である。

#### 4 本時のねらい

集団をよりよくするために、自分の属する集団の意義や目指す方向性を考え、自分にできることを全うすることで、集団がさらに高まっていくことを理解し、自己を見つめ、実践への意欲をもつことができるようにする。

#### 5 展開構想

